

新設授業科目 改善策（開講科目名： 研究プロジェクト演習 ）

担当教員名【 今井範子・藤原素子 】

①カリキュラムの改善点

本演習は研究マネジメント群に位置し、まさに研究セミナーの企画・立案・遂行を学生主導型で行なうという点でその学習目標を達成したと思われる。カリキュラムの改善点は特にな

②シラバスの改善点

本年度の授業進行はシラバスに沿ったものであった。シラバスの改善点は特はないが、年間スケジュール的な記載のしかたにすることは可能である。

③授業形態の改善点

本演習の形態は学生主導型であった。実際に毎回の授業は学生が交替で司会、書記を担当し、進行した。また、セミナーおよびその報告会の企画・立案・遂行においても学生が主体的に行ない、教員は必要なときに助言を行なった。その過程で、本演習の大きな目的であるところの「協同的活動」「自ら課題を発見し解決する力の養成」が十分に達成されたと思われる。

④配布資料の改善点

本演習では、その授業形態から毎回配布資料は行なわなかった。ただし、セミナー開催までの事務的な手続きについては、マニュアルを配布し説明した。改善点は特はない。

⑤学生への対応の改善点

授業が学生主導型で展開される中で、必要なときに助言を行ない、また授業外でもメールによるやりとりを通して十分な対応を行なった。

⑥TAのあり方の改善点

本演習は博士後期課程の学生対象のため、TAを配置することができなかった。受講生が多い場合に本演習をマネジメントする上で、助教の担当を検討してほしい。

⑦その他の改善点

セミナーのテーマについて、受講生個別の研究テーマに関するだけでなく、広く「大学院教育研究にかかわるセミナー」とするなど、毎年連続的に共通のテーマを見出して展開していくことを検討したい。